

実践記録（小5・道徳）

1 ねらい

インターネット上でのやりとりでは、送った相手がすぐに返すことができない場合があることを理解させ、相手の状況や気持ちを考え、思いやりをもって接する態度を高められるようにする。

2 手立て

- ・ 学級アンケートの結果を提示し、情報通信機器が身近に利用されていることを確認する。学級アンケートと全国アンケートの結果を比較し、スマートフォン所持率が全国平均よりも多いことを確かめる。その後、メール体験活動で困ったことを取り上げ、使っていく内にトラブルが起きていくことを実感させ、「トラブルが起きないようにするにはどうしたらよいか」「インターネット上でやりとりする時に気を付けることを考えたい」という思いをもたせる。
- ・ 自分の目標をたてさせる。自分の目標とは、情報通信機器を持った時にどのような行動をとるのかという態度につながってくると考える。本時では、「今後、送った相手から返事が来なかった時にはどのように行動しますか」と発問する。そうすることで、友達を思いやる気持ちをもって情報通信機器を使用していきたいという思いをもち、学んだことを振り返らせる。

3 実践の様子

授業の始めに、スマートフォンの所持率についての全国平均と学級全体を比較する活動を行った。まずは、学級では28人中11人の児童がスマートフォンを所持しており、全体の39.2%であった。この数字を示すと半数近くの児童が予想していたよりも多いと発言した。次に、全国平均がどれくらいだろうかと問い掛け、考えさせていった。自分たちの所持率39.2%よりも多いと予想した児童がほとんどであった。そこで、小学5年生のスマートフォン所持率が、17.8%であることを示すと、驚きの声をもらした。学級の所持率と全国の所持率を比べる活動を通して、学級の児童の中でスマートフォンを持っている児童の割合が大きいことを知り、情報端末が身近にあることを理解した。次に、文部科学省情報モラル動画を視聴し、トラブル回避のためにできることを、対話を通して考えていった。最後に、授業のまとめと振り返りを行った。まとめの場面では、相手の状況や事情を考慮することが大切であるという発言が聞かれ、「インターネット上のやりとりでは、思いやりの気持ちをもつこと」の大切さの重要性に対する理解が深まった。



文部科学省情報モラル動画

「インターネット上のやりとりでこれから気を付けること」について「返事がなかなか返ってこない時には、どうしますか」

と発問し、振り返りを行った。児童の振り返りの記述には、「相手への思いやりの気持ちをもつこと」や「相手の事情を考えて行動する」ことなどの授業の内容を生かした振り返りの内容が見られた。

2 インターネット上のやりとりでこれから気を付けることを書きましょう。

メールの返信がこなかったらおこるし、よくて思いやりを、逆に心配してあげようと思います。理由は、相手に（事情）があるからその事を考えなくてあげようと思いがたります。

振り返りの記述

4 成果と課題

- 学級での話し合いや友達の意見をもとに、「インターネット上のやりとり」で、相手を思いやることを意識した振り返りを行うことができた。
- トラブルの内容について知らない児童にはめあてをつかむことが難しい様子が見られた。動画を視聴してからめあてについて考えていけると良かった。

